

小田原

広

報

まちづくり情報誌

1999 11月号
11/1

平成11年11月1日発行
No.758

特集 おだわらのこころ

いつの世にも受け継がれる「こころ」がある。



究極の味わいを求めて

曾我の梅は守っていかなきやね

平成10年度小田原梅干コンクール
神奈川県知事賞受賞者 穂坂すみ子さん



【梅干し】



毎年作っても
同じ味には
ならないんだよね

「すぐに行くからちょっと待ってね。今、梅の剪定をしているのよ。結構大変な作業だね」穂坂さんが梅林の中から出てきた。額には玉のような汗が光っていた。目の前に少なく見積っても1000本以上は優にあらう梅の木が広がっていた。

梅干しが広まったのは鎌倉時代になってから。禅僧が好んで食べ、それを武家がまねたのが始まりといわれる。小田原の梅干しは、北条早雲がその薬効と腐敗を防ぐ作用に着目し、梅干し作りを奨励したことから広まった。

「曾我の梅は本当においしいよ。それに体にもいいしね。最近では、梅干しががんにも効くなんて話を聞いたよ」と、穂坂さんは笑って言った。目の前には、樽にぎっしり入った梅干しがあった。昨年、県知事賞を取った梅干しだ。見るからにおいしいそうだった。果肉は厚く、皮がきめ細かい。

「梅干しには十郎梅がいいんだよ。でも、毎年作っても、同じ味にはならないんだよね」気候によって梅の味が微妙に違ってしまいうらしい。穂坂さんが、樽から梅干しを取り出してしげしげと眺めながら言った。「この家に嫁いできたとき、朝早くから夜遅くまで毎日忙しく、これは大変なところに嫁いできたと思ったよ」。人手を頼むとお金もかかるし、手伝いの人が帰った後でも、梅干しづくりは、結構やる必要があるそうだ。

「でも、苦労はしていないよ。曾我の人は皆親切だし、家族にも恵まれた。私の人生はずっと梅だったから梅がなければ生活もできない。死ぬまで梅干し作っていくんじゃないかな」と穂坂さんは笑った。本物の笑顔だった。よかった。これからも、穂坂さんの梅干しは、ずっと食べられそう。

「曾我の梅はずっと守っていかなきやね」と穂坂さんは、自分に言い聞かせるように言った。



平成10年度に3万本を製造。現在は、小田原市内を中心に県西の2市8町のみ販売だが、新潟や広島などの遠方からの問い合わせも多い。今年は曾我の「十郎梅」を使用。価格は1,200円。近いうちに、梅わいん入りチョコレートも登場する。

絶対
いいものができる
と信じていました



伝統と情熱を、ボトルに詰めて

小田原酒販協同組合事務局長 福田喜代美さん

「さて、何から話しましょうか」。小田原梅わいんを持って椅子に座ると、福田さんは言った。「私の梅わいんへの思い入れは人一倍ですよ」。ちょっと驚いた。事務局長と聞いていたので、どっしりとした人を想像したが、前にいるのは、明るくて、気さくな人だった。

ワイン [Wine] ぶどうの果汁を発酵させて造る醸造酒。色により赤・白・ロゼに分かれ、性質により、ナチュラル・発泡性・アルコール強化ワインに分かれる。ぶどう酒。

〔出典：小学館日本語大辞典〕
辞書を引くと、こう書いてあった。

しかし、ここで登場するのはぶどうではない。梅である。

この小田原梅わいん、相変わらずの好評で、昨年の発売からずっと売れ続けているのだ。

「小田原梅わいんができたきっかけは、小田原市の農協が、梅の実をビニール状(つぶして裏ごしにしたもの)にして保存する技術を習得したことからでした。曾我の梅は天下一品ですよ。そこで、この梅を使ってワインを作ろうという意見が出たのです」

梅わいんの製造は、マンズワイン社が請け負った。「最初は少し甘すぎる感があった、味を決めるのに苦労したのですが、農協・工場の方はもちろん市の方も、皆すごく情熱を持っていたので、絶対にいい物が出来ると信じていました」と、目を輝かせて言った。

福田さんが、梅わいんのふたを開けた。あま酸っぱい、完熟果の香りがいっぱい広がった。青梅をアルコールに漬けて込んで抽出する梅酒と違って、梅わいんは、ワインと同じ製法で梅の果汁を発酵させて作る。まさしくワインである。

福田さんは、兵庫県出身。小田原に来るまでは、梅と言えば「紀州梅」だったが、小田原梅の皮の柔らかさには驚いたという。この伝統の梅を何か新しい形で伝えていきたい、と感じたそうだ。

「小田原の人は、皆やさしい。周りの人に本当に気を配ってくれる。でも、反面、周りを気にしすぎて飛躍するチャンスを逃してしまふことも多いような気がしますね。ときには思い切った何か飛び込んでみることも必要じゃないかなって感じがします」と、梅わいんを眺めながら言った。

「小田原に行けば梅わいんがあるよ」こんな言葉を聞くことが、今の彼女の夢。

「小田原梅わいんは原材料も、造る人の思いも、すべてが違うんです。どこの梅ワインと比べても絶対に負けない自信がありますよ」と、福田さんは最後にこう結んだ。

木が息づくまち小田原



この木にも
メッセージが
込められるんだよ

夢に向かって、とう刀を握る

彫刻家 北村憲司さん

「20年前、展覧会用の材料を買うために小田原に来た時、感じたんだよね。自分の夢を實現できる場所はここしかないって」
北村さんの話が始まった。

【彫刻】

北村さんは日展で特選を受賞した経験を持ち、各地で個展を開いている彫刻家だ。日展は、日本の美術界を代表する巨匠や、第一線で意欲的に活躍している芸術家が集う、世界にも類のない総合美術展。ここで入賞することはとても名誉なこととされている。

文化勲章作家の圓鏝勝三先生に弟子入りし、彫刻について1から10まで教え込まれた。北村さんが先生の下で修行して体感したことは、「彫刻とは、木という素材を通して送られるメッセージである」ことであった。「この木にも、メッセージを込められるんだよ」と、普通なら捨ててしまいうような木の破材を差し出しながら、北村さんは言った。

現在、日本の情報の発信地はすべて東京。世界のニュースも東京に入る。しかし文化となると話は別。西洋は石と金属の文化で、日本は木の文化。古来から日本人の生活に密着



し、文化を育ててきたのはまさに木であった。小田原は海と山に囲まれ、小田原城周辺や寺や神社などには、今なお自然林が残っている。ここでは、古くから木工が盛んで、漆器や寄木細工、そして木象嵌などは、全国にその名を知らしめている。

「小田原のすごいところは、材料としての木が豊富ということだけではない。木を加工する技術と木を守ろうとする人々、そして伝統。木にまつわるすべてがそろったまちなんだ。このことをもっと知ってもらいたい。ここでは人が人らしく生きている。だから、小田原にはいろいろな可能性があるんだよ」と、熱く語った。

小田原は保守的だ、とよく言われるが、腹を割って話をして腰を落ち着ければ、こんなに素晴らしいところはない。北村さんは、北条彫りという技法に取り組みながら、多くの人たちにも彫刻教室を開き、木の持つ温かみを次世代に伝えている。自分の彫刻技術が、少しでもこのまちの友人の役に立てれば、と考えながら、日々彫刻刀を握っているという。小田原では、木の文化を育むためのさまざまな試みを行う

「木の文化工房や、小田原の地場産品を、世界に誇れる価値のある商品に高めていく工房文化都市構想など、新しい動きも始めている。

今年8月には、若い芸術家が自由に創作活動ができる場所を提供するため、市内本町の国道1号沿いに「おだわら木のアトリエ、モック」がオープン。新しい木の文化の発信と創造が行われている。

「小田原ならではの木の文化を世界に発信すること。夢は大きいよ」と北村さんは言った。





左から、飯沼さん・大津さん・増田さん

この世界は
理論じゃない
体でおぼえないと…



【漆塗り】

スクラム組んでただいま修行中 漆職人 大津さん・飯沼さん・増田さん

「漆は生き物であり、気まぐれだ。春夏秋冬その表情が変わる。うまくつきあい、あやつり、自分の感情表現によりその中に命を吹き込むことができれば、いっぱしの職人とはいえない」師匠の大津晃さんの言葉で二人の愛弟子の顔に緊張感が走る。

ここは、久野の大津漆工芸。漆と甘い木の香りで約14畳の細長い仕事場には独特の時間が流れている。

愛弟子とは伝統工芸後継者育成事業に応募した増田理恵さん（浜町）と飯沼孝彦さん（千代）。二人は小田原の漆塗り職人を目指して

池谷漆芸（中町）とここ大津漆工芸で修行奮闘中。全3年間の研修は現在2年目を迎える。

小田原漆器は、室町時代に、箱根で入手できる木材を「ろくろ」でひいた挽物細工に漆を塗ったのが始まりと言われている。江戸時代に入ると碗・盆・皿などの生産が盛んになり、他の産地から塗師を招いて漆塗技法の向上が図られた。これにより小田原漆器の特徴である、木地の木目を生かした擦り漆の技法や、木地呂塗が発達し、昭和59年5月に通産大臣指定の「伝統的工芸品」に指定されている。

小田原生まれで小田原育ちの二人は漆塗りに対して特別の思いがある。

「祖父が漆職人だったのを最近知ってこの道を選びました。祖父の血・小田原の心を受け継いだということでしょうか。漆とは自分の世界への不思議な入口ですね。嬉しいときも悲しいときも、いざ、仕事場に入ると同じ精神状態になっていく自分がつくんです。今はこの道の深さにびっくりです」と、まばたきもしないほどの真剣なまなざしで碗の表面にはけを滑らす飯沼さん。

「漆のアメ色が好き。じつと眺めていると、その中に吸い込まれていきます。漆塗りは私の将来そのものです。長年あこがれの仕事でしたが、会社を辞めてまでこの世界に入ってきた。これだから正念場ですね」と、親がわが子の頭をなでるように布でやさしく碗をぬぐう増田さん。

「まだまだ二人は甘い。この世界は理論でなくて体で覚えないとだめ。今後もピシッといきますよ。ピシッとね」と大津さん。

チームワーク抜群の三人は、今日もスクラム組んで小田原漆器に挑む。



心を揺さぶる鼓動と響き

太鼓は、昔から人間が慣れ親しんできたであろう楽器だ。ただけは音が出るこの原始的な楽器は、体を躍動させるリズムを産み、心拍数を高め、打つ者にも聞く者にも全身に振動を与え、心を熱くさせる。シンプルな楽器だからこそ、打つ者の感情や思いがストリートに表現されるのだ。小田原には、そんな太鼓に魅了されている人たちが大勢いる。

守り、伝えていく伝統

お祭りの時期、神社の境内などから聞こえる笛と太鼓と鉦の音に、心が浮き立った思い出はないだろうか。小田原囃子は、そんな親しみのある懐かしい響きである。

このお囃子は江戸時代中期に生まれた祭囃子で、250年ほどの歴史を誇っている。これは地域に広まり、神社のお祭りだけでなく道祖神のお祭りにも使われた。今でも小田原囃子と同流と思われるお囃子を、神奈川県西部のそこかしこで聞くことができる。市内でも、その土地の特徴がよく出た多彩なお囃子がそれぞれの地区に伝わっていて、いろいろ

いてわくわくするねえ」と語るのは、小田原囃子多古保存会会長の鈴木良平さんだ。多古地区(扇町)では、白山神社に伝わるお囃子を地元の子供たちに週一回教え、組織的に保存しようとしている。楽譜は特になく、昔は口伝で教えられたのだが、今の子供たちが覚えやすいようにと譜面をおこし、練習に励んでいる。

7歳のころから太鼓をはじめ、お囃子がない生活などきつと想像できない鈴木さんの最大の関心事は、そのルーツだという。

「江戸時代のころ、寺町(扇町一丁目付近)に『桐座』という芝居小屋があったそうです。関西から箱根を越えてやってきた芸人が、ここで芸を披露して成功しなければ江戸へ上れなかったというほど権威があったとか。小田原囃子は、当時『桐座』に出演していた江戸歌舞伎の囃子方から、お囃子の好きな村の若い衆が習いはじめたのが始まりだと言われています。」



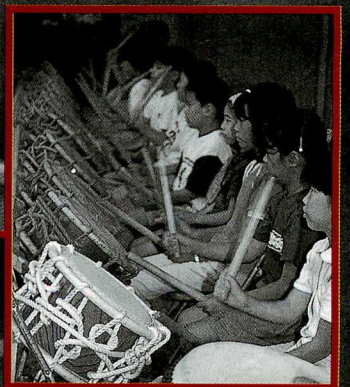
鈴木良平さん

「今でも太鼓の音が聞こえてくると、腹に響

今でも太鼓の音が聞こえてくるとわくわくする

周りの人に聞くなどして、どのくらい似ているのか確かめてみたいとも思っています。」

昭和44年には神奈川県無形民俗文化財に指定され、昭和55年にはかながわ民俗芸能50選に選ばれている小田原囃子。曲を繰り返し練習していい音色を追求し、五線譜では表せない微妙な音程を伝え、後世に残すために奮闘し、この伝統を未来に託す。



【小田原囃子】

創造と、未知の世界への挑戦

太鼓という楽器は奥が深い。打楽器全般に言えることだが、たたけばだれにでも音が出るだけに、いい音を出すことが非常に難しい。じっくり太鼓を聞いていると、たたくときの力加減やたたく場所で、こんなにも音が違うものかということが分かる。一斉に打ち鳴らされる太鼓の迫力は、体の内も外もしび



太鼓奏者・林英哲さんに作曲をお願いし、たたき手を市民から公募したのが始まりである。以来、市のイベントやあちこちのお祭りなどでその勇姿を披露しているのだ、その演奏を目の当たりにしたことがある人も多いことだろう。

現在小田原北條太鼓の会の会長をしている武尾幹さんは、実は地元町内でお囃子も教えている、根っからの太鼓好きだ。

「お囃子も北條太鼓も好きだよ。お囃子は、曲が6つしかないけど太鼓以外に笛や鉦があつて楽しいし、北條太鼓は決まった曲しか演奏できないってことはないから、失敗も多いけどいろいろ挑戦できるし。お囃子のゆっくりしたテンポはいいなあなんて思うときもあるし、やっぱりどっちが好きかなんて比べられないね」。

太鼓は、上手にたたけるようになるまでにとっても時間がかかる。かつこいと思つて始めても、なかなか思いどおりにいかないのでもやめてしまう人も多いのだそうだ。しかし、ある程度上達すると、たたくのが楽しくてたまらないのだという。

現在、試行錯誤を繰り返しながら練習を重ね、順調にレパートリーを増やしている北條太鼓。彼らの挑戦はまだまだ続く。

失敗も多いけど
いろいろと
挑戦できる

武尾 幹さん



現在、試行錯誤を繰り返しながら練習を重ね、順調にレパートリーを増やしている北條太鼓。彼らの挑戦はまだまだ続く。

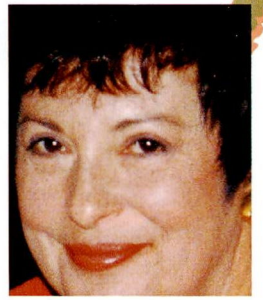


【北條太鼓】

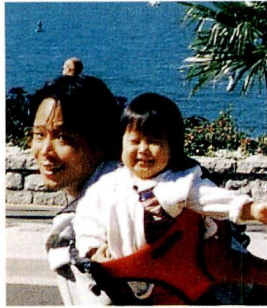


地球の裏側からの メッセージ

拝啓 親愛なるおだわらの人達へ
小田原大好きな私は、大きな夢を持ちつづけ、さまざまな活動をしています。
追伸 21世紀もあなたにとって幸せな年でありますように。



●カナダ・バンクーバーから ホット・ドッグ



ふみひろ
小澤文洋さん

上曽我出身 プリティッシュ・
コロンビア大学大学院在学(カ
ナダ・バンクーバー)

ロブソン通りは、高級ブティックが軒を列
ねるバンクーパーの目抜き通りである。ここ
に、一見ミスマッチのように視界に余儀なく

入ってくるのは何人かのホームレスの姿であ
る。中には、^{よわ}20歳そこそこかと思われる着
飾ればだれしもが振り向くような娘が、
「Hungry, Help me! (空腹です、お恵みを)」と
いう文字を段ボール紙に書いて道にうずくま
っている。
折しも、日本では不景気の状態を顕在化す
べく失業率が5パーセントを超えたとか超え
ないとかとのうんぬんが報じられていた。確
かに、今の日本は近年稀に見る不況にさらさ
れているのかもしれないが、銀座の三越や和
光の店先にこのような人々がうずくまる姿を
目にしないという点で、まだまだ物理的には
ゆとりがあると言っよい。
しかし、ロブソン通りの貧困のどん底に喘
ぐ彼らの中に、人間としての本質的な豊かさ

を見た。その青年は、薄汚れた帽子を前に置い
て座り、道行く人から小銭が入られるのを無
言のまま待っている。そうして得た小銭をかき
集めては、やっこの思いで1日に1本のホット
ドッグを買うことが彼らの生業である。と、こ
こまでは他のホームレスと同じである。
ただ、その青年が違っていたのは、コリーの
入った雑種犬を飼っていたことである。そして、
あるうことが、その犬に自分が買ったばかりの
ホットドッグを半分ちぎって与えていたのであ
る。自分がその日食べることもおぼつかない状
況下でとりかわされたその行為に対し、私は尊
敬の念とともに感動を覚えた。ツルゲーネフが
著書「散文詩」の中で描いた「乞食」を思い出した。
そして、私も「施しを得たような気がした」の
である。
私は、現在、ロータリー財団の奨学生として、
プリティッシュ・コロンビア大学の大学院で言
語教育の研究テーマに取り組んでいる。そして、
ようやくこの秋の卒業が決まったところであ
る。今、振り返るに、今回の留学に際し、確か
に迷わないではなかった。約8年間、高校で英
語を教えてきて、そのまま安定した職業に従事
して妻子を養って行くことも正当な生き方だと



緑に囲まれたプリティッシュ・コロンビア大学図書館

思い、ふと、いい歳をして留学なんてやっぱり
やめてしまおうかとも思った。
日本の基準からすれば、30歳を過ぎてまた
学生にもどるなんて信じられないと思われても
仕方がない。しかし、こちらのキャンパスでは
30歳はおろか、40、50歳の人も机を並べて議
論を闘わせるのがごく自然なこととして行われ
ている。学問の世界に年齢は関係ないのである。
いや、学問の世界だけではなく。この国では就
職の際の履歴書に年齢項目はない。人物本位、
実力主義が当然のごとくまかり通る。そうした
環境の中で生きて経験できたことは、学問的に
も人間的にも真実を正しく見極める力の獲得に
一歩近づけたと言っいいかもしれない。今回
得た半分のホットドッグは自分自身のために、
そしてもう半分は社会の中の何かに貢献するた
めに。
そして、最後に附記しなくてはならない。こ
こバンクーバーの夏は世界で最も美しいといわ
れており、実際そのとおりであった。しかし、
同時に、それは約半年に及ぶ世界で最も長い雨
期に裏打ちされた緑の鮮やかさと空の青である
ことを忘れてはならない。

●アフリカ・ガーナから 「Ndina おはよう」 「Akpenawo」

ありがとう



かみむらまよ
上村真代さん

栢山出身・平成11年度青年海外
協力隊の隊員として、アフリ
カ・ガーナに赴任。

小田原のみなさんこんにちは。私は7月11日
に青年海外協力隊・平成11年度第一次隊の理数

●オーストラリア、マンリーから ときめき国際学校随行者が新市長に

ジン・ヘイさん
新マンリー市長。マンリー市議
姉妹都市委員会のメンバーとして
長年小田原との交流に尽力。写真
はマンリー市での「ときめき国際
学校」歓迎ディナーにて。(左は夫
デイビッドさん)



「すてきなまち」小田原のみなさんへ。

9月に行われたマンリー市長選挙で新しい市長に選ばれた直後に、小澤市長さんをはじめ、多くの方からお祝いのメッセージをいただき感激いたしました。

小田原のすばらしい友人たちとともに交流事業に参加できたことをたいへん喜んでます。

私たち二つの市がともに築き上げたこの緊密な関係は、国際親善と理解において燦然と輝く事例の一つと考えています。

小澤市長さんやときめき国際学校の関係者、さらにすばらしい小田原市民の皆様とともに、この絆をもっと確固たるものとするために尽力できることは、マン



市民ボランティアとともに

リー市長として大変光栄なことです。

また、この誌面をお借りして、すてきなまち小田原を訪れたマンリー市民を温かく迎えてくださった市民の皆様へ厚く御礼申し上げます。

私自身も、1996年に、ときめき国際学校のマンリー市からの参加学生25人の随行者として、夫・デイビッド(元マンリー市長)とともに小田原を訪れました。両市の中高校生の活発な交流、市民ボランティアの活躍を目の当たりにした喜び、市民と直接ふれあえたホームステイなど、小田原の皆様の温かい笑顔・ご親切は忘れることはできません。いつの日か、もう一度小田原を訪れたいと思っています。

西暦2000年、そしてその先も市長として小田原の皆様をお迎えできるなんてなんとうれしいことでしょう。

小田原市民の皆様のご健康、ご多幸、そしてご繁栄をお祈り申し上げます。

ガーナで気をつけなければいけない病気はマalariaです。ハマダラ蚊に刺されるとマalaria原虫が血管に入り、治療が遅れると死んでしまいます。虫よけスプレー、蚊取り線香、蚊帳は必需品です。そして毎日予防薬を2種類飲んでいきます。風邪ですら薬のまない私にとってはつらいものです。ガーナ隊でマ

リナ(ンブイナ=おはよう)、Apenawo(アクペアウ=ありがと)。語学の嫌いな私にとってつらい日々の始まりです。市内を歩くときとくさん声をかけられます。「どこへ行くの?」「ホテルへ」習ったばかりの工べ語が通じたときは少しうれしかったです。

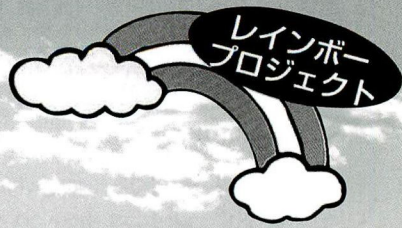
科教師としてガーナに赴任し一か月が過ぎましたが、これといってアフリカにきている感じがしないのがすごく不思議です。
昼間は暑いですが今は雨季なので突然スコールが降ってその後は涼しいというより寒いくらいで、夜もけっこう寒いんです。私がこのでの実習を経て行くボルタ リージョン(州)もわりと寒いらしいと聞きました。ホームステイ先の家は水が出るのでいいのですが、バケツ一杯の水で体を洗わなければならない隊員もいるようです。私もそろそろお湯が恋しいです。
現地の EWE 語の訓練が始まりました。

青年海外協力隊
アジア・アフリカ・中南米などに、自分の技術や経験を生かしたいという強い意思を持った青年を派遣し地域の人のために貢献する事業。昭和40年の発足以来、66か国へ20,000人を派遣している。小田原市からは昭和63年から23人が参加し、現在4人がアフリカ・中南米で活躍中。



リアにならないで日本に帰る人はいないくらい流行しています。
ガーナでは、どこへ行くのもバス。車の渋滞がすごく、やたらと時間がかかります。しかも途中で故障することもしばしば。そのうち慣れしてしまうでしょうけど。また長距離のバスは

客がいっぱいにならないと出発しないらしいことが分かりました。車中は人でいっぱいですが少し苦しかったです。印象的だったのは私の横に座った体格のいい子供連れのお母さんが前の人と明るく話していたことです。日本ではちょっとぶつかっただけでもいやな顔をされることもあります。でもここでは知り合いでなくても楽しく話したり、車中が少し静め状態でも苦しくても人と肌をくっつけながら車に乗っていることが少し快い気がしました。
9月からは、ソコデ高等技術学校という日本の高校にあたるところで基礎数学と理科を担当します。中学・高校時代に私に教えた英語の先生はかなり驚かされましたが、もちろん英語で授業をします。
近年ガーナは理数科教育に力を入れていて、協力隊員も増えつつありますが、高校にはある程度裕福な生徒しか行くことができず、一般的には学力も標準レベルまで達していないのが現状です。教員経験がなく、語学力が乏しい私にとってはかなり厳しいですが、楽しい授業ができるよう、努力して、生徒に勉強の楽しさを伝えたいと思っています。
2年後には今より少しでもたくましくなった姿で皆さんにお会いできると思っています。



時空を超えて豊かな生活を営んできた小田原人。このかけがえのないふるさととは、恵まれた自然環境と先人たちの知恵と努力のたまもの。だれもが幸せに、未来も幸せに。その願いを込めて小田原市総合計画「ビジョン21おだわら」の重点施策「レインボープロジェクト」のリーディング事業の中から、「環境先進都市の推進」「子育て支援」を今回は紹介します(連載)。

問企画政策課 ☎33-1305



美しい郷土 未来への願い

環境先進都市の推進

私たちは日常生活や産業活動において利便性などを追求するあまり、恵まれた環境の恩恵を忘れていました。その結果、自然を破壊したり、環境に負荷を与えたりして、重大な地球環境問題を引き起こしました。その反省から世界的な規模でさまざまな行動が始まっています。

今、私たちは環境先進都市としての自覚をもって身近な小田原市の環境の現状と課題を見つめ直し、環境を優先する社会をつくっていきます。

問環境保全課 ☎33-1481

未来エネルギーの導入

石油をはじめとする化石燃料の消費は今後ますます高まることが予想され、大気汚染や地球温暖化はさらに深刻な状況になると考えられます。これを防ぐためには、生活様式を

見直すことによる省エネルギーを進めるとともに、太陽や風力などの自然エネルギーやごみの焼却時に出る熱を利用したりサイクルエネルギーなどを活用することが望まれます。

平成11年度は自然エネルギー利用計画を策定し、引き続き施設の設置や普及の方策などについて検討していきます。

ゼブラプランの推進

自動車の排気ガスは環境に悪い影響を与えています。そこで低公害車の導入を推進することにより、環境保全意識を高め、環境の改善を図っていくのがゼブラプラン推進事業です。

平成10年には市民・事業者が中心となって小田原市低公害車普及促進会議を設置し、低公害車体験試乗会など市民への啓発活動を行っています。

なお、その成果として平成11年9月現在、市公用で9台、市内全体で70台の低公害車が走っています。

チャリティー学院祭のご案内

11月7日(日) 10:30~14:30

～模擬店・バザー・介護用品の展示体験～

後援/キッコーマン株式会社
協賛/小田原市社会福祉協議会
社会福祉法人 東洋会

お願い:お車でのご来場はご遠慮下さい。

学校法人・専修学校・厚生大臣指定校・文部大臣指定校

崎村調理師専門学校

小田原市城山2-1-9 ☎0465(34)3377 小田原駅西口より徒歩3分 社会福祉センター南隣



皆さまの問い合わせの上
ご来校下さい。

菜根淡2階に、隠れ家あり。

洋間(8名まで)・和室(12名まで)の1日2組のおもてなし。パーティー、忘年会等のお集まりにもぜひどうぞ。

たとえば、3,500円コースなら

だし巻き玉子、ローストじゃがいものポテトサラダ、つるむらさきとタコのからし醤油、かぶと柿のなます、キンピラ、小松菜の胡麻和え、豆腐のスープ、にらまんじゅう、れんこんしんじょうの青菜くずあん、古代米&アグリクス茸の炊きこみ御飯、お吸い物、ぬか漬け、黒胡麻豆腐の黒蜜

その他2,500円~5,000円までのコースがございます。要予約。

お弁当&お惣菜の店

菜根淡

さいごんたん

栄町 1-16-38 ☎24-3027



広告



子育て支援

核家族化や都市化の進展によって、地域や世代間のつながりが薄れ、子育ての相談相手もなく孤立し、育児不安などに陥る親が増えています。

また、女性の社会進出が進み、仕事と子育ての両立が求められています。

そこで、出産や育児への不安や負担感を少しでも減らし、子供を安心して生み、子育てを楽しめるよう支援します。

それは、子や孫に郷土を大切にすることを引き継ぐ願いからです。

子育て支援センター

小田原の子育て支援の拠点です

☎350052

子育て支援センターは、子育てで不安やイライラを感じるお母さんの気持ちを聞き、一緒に考えていくところです。お相手は「先輩ママ相談員」の子育てアドバイザーです。

同じ立場の人と出会い、交流や情報交換などをしながら自由に過ごせる「子育てひろば」を開いているほか、子育て情報の提供や個別の相談など幅広い活動を行っています。

地域育児見せセンター事業 地域のすべての子供たちの成長を やさしく見守っていきます

☎ 児童福祉課 ☎331454

市内9園の保育所などに、その保育機能をいかして、最も身近な子育て支援の場として活動している「地域育児見せセンター」があります。

育児相談、児童・地域・子育て家庭同士の交流事業、一時保育や宿泊保育などの支援メニューがあります。

子育ての心配こともみんな楽しく遊びながら解決したい。ボランティア活動したいが託児所がない。こんな方は遠慮しないでお近くのセンターをお訪ねください。

ファミリーサポートセンター 仕事と育児の両立を応援します

☎350053

と育児の両立。働いている人にとって、大きな問題です。

市内で初めてオープンしたファミリーサポートセンターは、そんなお父さん

ん・お母さんが仕事と育児を両立し、安心して働くことができるよう地域（市内）が互いに助け合っていくことを目指します。お子さんを預けたい人と、預かる人をもって組織をつくり、その会員相互による育児援助の有償ボランティア活動を行います。

10月1日現在支援会員98人

依頼会員92人

まだまだ募集中！お気軽に。



ソーラー発電設置台数 No.1 比べてみればやっぱり京セラ

無尽蔵の太陽エネルギーで、ご家庭の電気を自家発電。電気代が浮くだけでなく、余った電気を電力会社に売ることができます。

お支払いは…

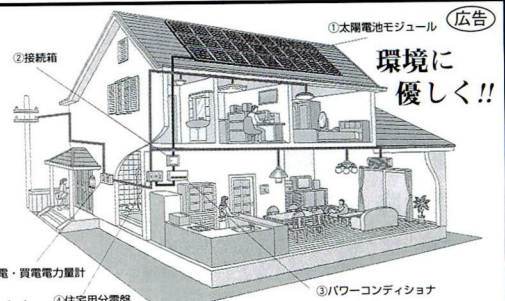
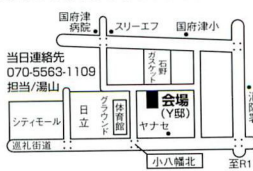
- 公的補助制度が利用できます
- + 公庫割増融資制度あり
- + 京セラソーラーローン

11月14日(日)、現地見学会開催!!

①AM10:30～ ②PM1:30～ 右記会場にて

費用は?ランニングコストは?公的補助はどのくらい?など、あなたの疑問に答えます。

素敵なご来場の皆様に京セラセラミック用品プレゼント



京セラソーラー発電システム (販売代理店) 株式会社 イチテック ☎0120-57-1109

特・別・寄・稿

北原隆太郎

オランダで悟る 禅の心

この夏、31年ぶりに西欧に旅した。18日間
の前半はオランダ、後半はフランスだった。
京都に本部のある私どもの(※注1)FAS協会
の第五回欧州大(※注2)撰心がオランダの片
田舎ティルテンベルクのフォーヘレンザン

(鳥の歌)禅堂で開かれ、五か国50人の仲間た
ちと学行一如の修行に励んだ。フランス文学
専攻でパリに留学中の長女ルミも参加して扶
けてくれた。

禅の心そのものは東西を絶しているが、欧
州という新天地で、21世紀をめざして、全人
類的・歴史創造的な禅が胎動しつつある。こ

れからが見ものである。西洋人でもすでに20
年も30年も坐禅に打ちこんでいる人々もいる
し、達摩大師そっくりのスウェーデン人もい
る。木製の補助坐具を用いる人も多いが、老
若男女を問わず、皆、姿勢正しく、真剣に坐
っておられるのには感動した。

禅堂の建築様式は日本や中国の伝統にはよ
らず、全く異なる石造で、8基の太い円柱を
支えとするアーチ型の天蓋があるが、それで
もやはり柱は縦で、床の敷物は横である。人
種や民族や老若男女の個性的な別は輝いて
も、だれしも皆、眼は横に、鼻は縦について
いる。額の中央に独眼が見開いている化け物
などいない。禅堂にはスチームもあり、宿舎
の一角には大図書室あり、コピー機や何台も
のパソコンもあり、地球上のだれかにすぐ連
絡したり、講演の要旨のペー
パーを何枚でも、50人分でも、
あらかじめ用意したりでき、
極めて合理的で、禅が如実に、
近代的科学技術を駆使する主
体となっている点、学ぶべき
ものを覚えた。無形無相(※注3)
活潑深地な根源的主体と、一
をも守らず、環境や時代に即
応して自在に転換しうる(※注4)
大機大用といったテーマにと
つて示唆的であった。

1929年 世田谷時代の家族写真
母菊子(上)・父白秋(左)・妹童子(中央)と私(右)



北原隆太郎 (77歳)

北原白秋・菊子の長男として小田原で生まれる。「揺籠のうた」など、白秋童謡を子守歌として育つ。現在は鎌倉在住。

(注1) FAS協会
1944年、久松真一創立の京大学道場が発展した団体。
FASは深さと広さと長さを示す記号。

(注2) 摂心
ある一定期間、不断に昼夜を分たず坐禅すること。

(注3) 活発荒地
魚がはねるようにきわめて勢いのよいさま。

(注4) 大機大用
大きな能力と大きな作用。

(注5) 結跏趺坐
坐法の一つ。足の甲で左右それぞれの反対側のももを押さえる形の座り方。

ふとよぎる 小田原への思い

宿舎での夜明けにチチツという雀の囀りとポー、ポーという鳩の啼き声で目覚めた瞬間、えもいえぬ至福の悦びに満たされた。

父白秋が小田原に移ってすぐの詩「野次に鳩」では、「おお、ほろろん、ほろろん、ほろほろ」と、白い鳩の啼き声が反復され、雀に至っては、父とは切っても切れない縁がある。詩文集「雀の生活」の生活体験は葛飾時代が主ではあっても、実際に執筆したのは天神山の伝肇寺の一隅に間借りしていたころだから、小田原の雀も大いに関与しているよう。

オランダのハーグ駅のプラットフォームにある待合室で、雀や鳩が勢いよく飛び込んで来ては飛び去るのを見し、雀と一体化した活白秋の現存をまざまざと実感した。パリの雀は羽に金色が混じり、肥えていて、多少、種類が違ふように見えた。パリでは公園のベンチでよく「結跏趺坐」した。これからの世界禅の最先端として自覚し、奮い立っている。

あこがれの北フランスへ

北フランスでは、アルチュール・ランボオ（1854〜91）の故郷を三日間にわたり探訪した。私の10歳の時、父が吉田一穂さんたちと創刊した「新詩論」の第一輯がランボオ特集で、以来、久しく憧れてきた「兄弟」ランボオの生地、67年目についてに至り得て、まさに喜寿となった。

シャルルヴィルは豊かな水の里であった。ランボオは自らのこの故郷にも反逆し、罵倒

している。父も、それほどではないにせよ、早熟で、「水に浮いた灰色の板」からの脱出は多少、似ていなくもない。私の祖父北原長太郎はランボオより2歳下で、ランボオの死は父が小学校に入った年だから、時代はそれほど隔たっていない。昔は馬車で理まつていたであろう街の大広場が、今は夥しい自動車の駐車場に変わりはしているが、高く鋭く真黒い教会の鋭い尖塔と基や周辺の家並みの煙突群や、川の水門など、当時の写真と較べてさして変わらず、ランボオがかつて見たであろう光景がまざまざと偲ばれた。

小田原と白秋と私

さて岩波版「白秋全集」全40巻中、小田原時代8年間の、各分野での大量の作品群の占める比重は非常に大きい。小田原の山や丘や街や海を見て、白秋が見たのと同じ風景を、人々に作品と共に想像していただければありがたい。

オランダでは、サイクリング専用道路が四通八達し、多くの人が銀輪を走らせていた。険しく狭い谷地の入り組んだ鎌倉でさえ、駅の端に貸自転車設備があり、大いに利用されている。もしまだ小田原駅の周辺にその施設がなければ、ぜひ設置されたい。「いこいの森」の奥までも自転車で行ってみたい。

関東大震災で一日崩れた水之尾道は狭い山道だったが、今では舗装されて、裏駅の方からバスまで走っている。辻村植物公園ができた時、私は新聞で知ってすぐ出かけた。父の



詩集「水墨集」の世界が果たしてそこに現成していた。北東の丘では、イングランド南部のストーン・ヘンジのような風光に接し、海まで見えて爽やかだった。水之尾道は歌集「風

隠集」などにも度々出てくるし、私も3歳児のころ、父とともによく散歩したもので懐かしい。当時、陵線（りょうせん）で電柱がブンブン唸っていた。最後に、私の母菊子（きくこ）を「アララギ派の歌人だった」とする、呆れた誤伝は解消されたい。改むるに憚らなくてこそ、小田原の心である。

山行けば

照りつつ涼し青羊歯の
淡き胞子も夏ならむとす

（水の尾の初夏「風隠集」より）

1920年 木兎（みみずく）の家（小田原伝肇寺境内）と白秋（右）と当時の妻章子（中央）と鈴木三重吉



1924年 小田原山荘（裏の伊沢邸）前にて、父白秋と私

白秋童謡館
開館一周年記念

特別展

11月14日(日)まで

小田原文学館

童謡の数々と白秋の生涯を
たどろう。 ☎22-9881

シリーズ ●報道解説

9月21日未明、突如として台湾を襲ったマグニチュード7.7の大地震は、最悪のものとなりました。震源地一帯の家屋は軒並み倒壊し、「まるで廃墟のよう」と新聞などで報道されました。8月には、トルコ西部でも大地震があったばかり。あらためて、地震のもたらす恐怖と、災害に対する備えの大切さが再認識されました。日本においては、先の阪神・淡路大震災の後、地震に対する危機意識はかなり高まったと思われませんが、時間の経過によって防災意識は薄れつつあると心配する声が聞こえ始めています。ここで、もう一度、防災について思い返してみる時期に来ているのかもしれない。

横行する違法建築

9月の台湾の大地震では、一つの大きな問題がクローズアップされました。それは、震度4と、さほど大きな揺れではなかった台北市内のホテルやビルが倒壊し、被害をここまで大きなものにしてしまったことです。専門家は、口をそろえて「手抜き工事」を問題にし、工事のずさんさを指摘しました。経費を押さえるために鉄筋を束ねる間隔を長くしたり、工期の短縮のために急いでコンクリートを流し込み、気泡が生じて、空洞になってしまっているビルの例もあると伝えられました。

実は、台湾にも日本とさほど変わらない程度の耐震基準が定められているのですが、経済発展によるビルの建設ラッシュの陰で、建築申請どおりに建てられていない、いわゆる違法建築が横行してしまつた経緯があるようでした。

「備えのための備え」として

では、日本ではどうでしょうか。

日本においても、阪神・淡路大震災の際には、1981年の新耐震基準以前に建てられたと見られる建物や、建築基準法に反する建物が倒壊し、多くの犠牲者を出してしまいました。一般的に、大規模な地震災害などの場合、救援が完全に行き着くまでには3日かかると言われており、それまでの水・食料などを確保することが大切です。しかし、地震の発生時に建物が倒壊してしまつては、対策を講じる余裕もありません。

備えのための備え、つまり、まず自分の身を置く環境が安全なものであるかどうかをもう一度見直すことが、今、求められているのではないのでしょうか。これらの地震は、私たちに、教訓としてこう問いかけているような気がしてなりません。

大震災が残した 教訓

～建築基準法改正～



国内の現状

日本の建築基準法では、いかなる建物を建てた場合にも、工事が完了したときは建築主事に申請しなければなりません。この場合の建築主事は市役所と考えればいいでしょう。申請を受けた市は、その建物に対して『完了検査』を行います。この検査に合格していない木造3階建て以上、もしくはデパート、店舗、ホテル、病院などの建物は、法的に使用してはならないことになっています。(7条の6)

2階建て以下の木造一般住宅は、基本的には除かれています。

しかし、現実には、それらの建物であっても検査を受けていないものがあるのも事実です。

市としても、建築業者や建築主、設計者などへの指導に努めていますが、なかなか認識が薄いののが現実です。

新しく導入される中間検査

小田原市では、今年12月から、建物の安全性を確保するため、中間検査制度を導入しま

す。これは、建築基準法の改正を受けて行われるもので、工事が完了してからではなく、ホテルや木造3階建てなど、市が指定した建物については、工事の途中の段階でも検査を義務化するものです。この中間検査を受けなければ、次の工事の工程に進むことができなくなります。

台湾大地震では、倒壊したビルの壁の中にサラダオイルの空き缶が埋められていたり、柱に発泡スチロールが詰まっていたりなどという信じがたいニュースが伝えられました。日本では、ここまでの例はありませんが、この中間検査制度の導入によって、違法建築の防止に効果が上がることが期待されています。

また、日本の場合は、一定規模以上の工事を行う際には、工事監理者を置き、工事が設計図のとおりに行われているか確認することが義務づけられています。これによって費用的な負担も増えることとなりますが、信頼できる専門家に、大切な建物のチェックをしてもらうことは、とても大切なことなのです。

私たちは、何かをするときに、他人に任せることに慣れすぎているのではないのでしょうか。いざというとき、自分の身を守るのは自分しかありません。家を建てる際にも、このような知識をみんなが持つこと。この積み重ねが、災害に強いまちを作っていくのでしよう。

《表紙の言葉》

戴帽式。最も軽く、最も重いナースキャップを授かった瞬間に、意欲と責任で心から涙する者も多いという。そして、ろうそくの炎とともにナイチンゲールに誓う。

看護は、与えて、また受けとるもの
看護は、支えて、支えられるもの



看護をめざし戴帽式に臨む者に受け継がれる心だという。小田原のまちが守られ、また変わっていく。しかし、小田原にはいつの世にも受け継がれる「こころ」がある。表紙の写真は小田原高等看護専門学校の松島直子さん

おやじの 背中

昭和20年代、小田原では連日のようにブリの大漁に沸き返っていた。

小田原の海岸線は、単調な地形ではあるが海が急に深くなり、陸岸に沿って回遊する魚群が海岸近くまで接近するため、ブリの定置網を張り立てるには絶好の場所であった。小田原の定置網漁は全国にその名をはせていたのである。

当時、父とともに小さな漁船に乗り込み、その漁の様子を写真に残した一人の新米カメラマンがいた。

ブリ漁獲量の変化

昭和26～30年	1,615,403本
昭和41～45年	103,357本
平成6～10年	5,170本

西湘6漁場合計

(真鶴、岩江、米神、小八幡、五ツ浦、大磯)

新米カメラマンとは、現在本町で写真館を営む五十嵐史郎さん(68歳)。「撮影当日もブリが大漁になることは分かりきってはいたが、海に出る朝は緊張しました」

小田原に住んでいる者ならだれもがブリが獲れることは分かっていた。黒潮踊る相模湾小田原沖では、そのころ毎日3～5万本のブリが水揚げされていたのである。当時の漁師の女房たちは、毎日決まった時刻に浜辺で漁船の帰りを待っていた。そして、海の男たちは当然のごとく大漁旗をなびかせ、誇らしげに大きな汽笛を鳴らし、海からの帰りを知らせるのが日課だったのである。

今でも史郎さんは、写真を撮ったときのことを鮮明に覚えていると言う。「ブリが網の中でバシャバシャ跳ねて、海一面がしぶきで真っ白に見えるほど、そりゃもうすごい勢いさ。波にまかせて、舟がちょうど波の頂点に昇った時、上から見下ろすようにシャッターを切ったんだ。網を手繰る漁師の『エンヤー』の声とブリの美しい勇姿が次々と揚がる中、おやじといっしょに夢中で100枚くらいの写真を撮ったのじゃないかと思うよ」

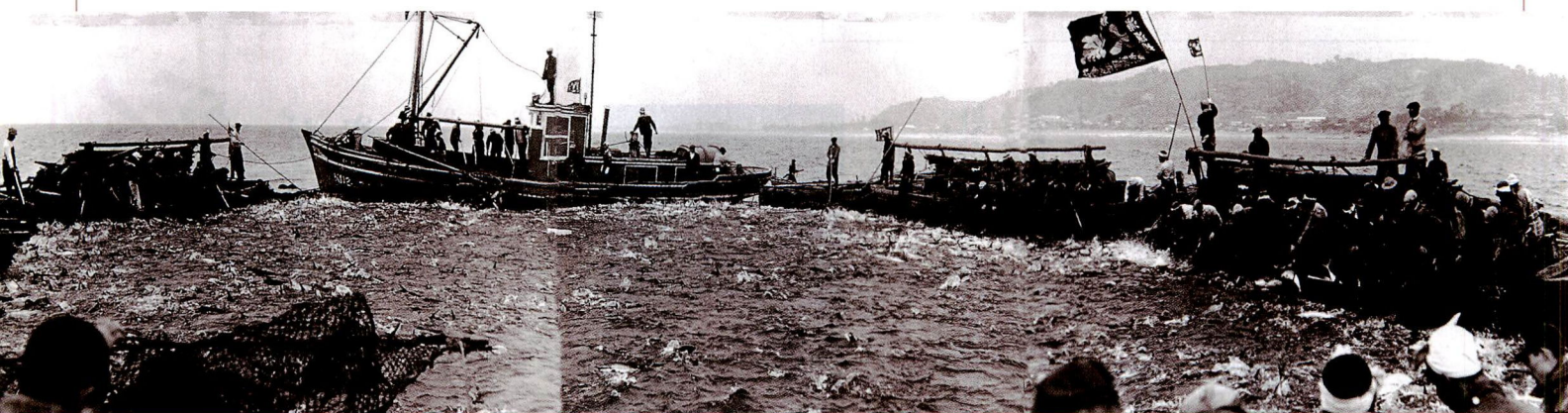
史郎さんは小田原の浜に到着したとたん、ほっとした安心感とゆれる船の上で夢中でカメラのピントをあわせていたこともあり、生まれて経験したことのないほどのひどい吐き気に襲われたと言う。「おやじはケロっとしていたけど、私はもう二度と舟には乗るまいと思ったね」。

代々の写真館を継いだ父・登さんの背中を見て育った史郎さん。毎朝、登さんは複数の新聞写真と長い時間にらめっこをしていた。「おやじは365日、写真のことだけを考えていた。そして納得がいくまで考え、ていねいな仕事をしていた」と。

しかし、自分と同じ写真の道を歩みだした息子に対して、決して多くのことを、語ろうとしなかった。

そんなおやじがある朝、ぼつりと言った言葉を史郎さんは忘れられないと言う。「史郎。おまえにはどちらの新聞の写真が良いか分かるか。それはなぜだと思う。カメラマンがシャッターを押した瞬間、どのような考えがあったのか、おまえには分かるか」と。答えは結局もらえなかった。でも、いつでもおやじは自分のお手本で神様のような存在だったと史郎さんは語る。

おやじ・登さんの姿を知らなくても、息子・史郎さんの今の姿とダブって見えるのは私だけだろうか。





ツデー 親子で参加します!

いよいよ迫ってきました、今話題の城下町小田原ツデーマーチ。最近では、街角で歩く練習をしている人をよく見かけます。人気も上々の様子!
そこで、ツデーマーチの20kmコースに親子で申し込みをされた島田さんに突撃インタビューをしてみました!

「富士山に登りたいんです。去年は7合目で断念しました。そこで、体力づくりもかねてツデーに申し込みました」と島田さん。ツデーマーチは、「ツデー」と略して親しまれているようです。
「歩くって、いいですよ。小田原の風景が楽しめるし、親子でも一緒に参加できる。体力? まだまだ子供には負けませんよ」と話してくれた島田さん。当日は、小学校3年生の忍くんと夢に向けて挑戦します。



まだ間に合うツデーマーチ!
11月20日(土)・21日(日)、県内で開かれる初めての全国規模のツデーマーチ。参加申込書は、市役所、支所、連絡所、マロニエなどに置いてあります。今すぐ申し込みましょう!
◎健康ウォーク大会推進課
☎331662

小田原の生きている森 里山の雑木林のしくみを知ろう

豊かな自然に恵まれた小田原。住み慣れてしまうと見過ごしがちなこの大きな財産を、このコーナーで見つめ直します。知らなかった生き物や植物との出会いが楽しみです。

日本自然保護協会 自然観察指導員 常盤 博城山

森のできかたをまよまよ

小田原の丘陵地に行くと、ところにより放置された田や畑を見ることがあります。注意してみるとシダや多年性のヨモギ、ススキの草本類、また、これらに加えてハギ、ウツギの灌木類などが生えています。放置されてからの年数によって、その生え方に違いが見られます。

さらに年数が経過すると灌木類の生えていたところは、アカマツやクヌギのような日なたを好む陽性植物などが生えて森林をつくります。この森林が成長し高木になると、林内に光が入らないのでシイ、カシ、タブのような日陰で育つ陰性植物の若木が育って、最後の森林となります。

その後、高木が老木になり、若木と交代して森林がつくられます。このような植物集団の変化を「遷移」といい、最後の森林の状態を「極相林」といいます。
放置された田・畑、崖崩れの跡地などがこの「極相林」になるまでに、およそ300年かかるといわれています。
また、太古から小田原にだれも住んでいなかったものと仮定して、現在の小田原の植生の状態がどのようなかを示すのが「潜在自然植生」です。
酒匂川を挟んで平野部の住宅地、水田、海岸域にはタブノキ。東・西部丘陵域の50〜150m域にはスダジイ、シラカシ。山地150m〜にはカエデ・コナラなどが鬱蒼としげる

小田原 彩時記

サーカスが
やってきた!

9月下旬に小田原アリーナに国立ポリシヨイサーカスがやってきました。「空中ブランコ」「虎のサーカス」など延べ2万7千人が楽しんだことになりました。



久保貴子さん(右)

ある公演で、ピエロに手を引かれステージにあがった久保貴子さん(鴨宮)。ピエロの強引なリードと5千人の大観客の拍手に押され、思いもよらずパントマイムをやるハメに。しかし、ピエロとの初共演とも思えない息のあった名演
技に会場は大爆笑、大喝さい。
「子供が私を見て寂しがって泣いているのかと心配でしたが、だんだん私も拍手でのおつてきちゃって」とすぐにスポットライトで会場のスタートに。

実はこの時、千歌子ちゃん(4歳)もママの珍演技に大喜びしていたのです。



ママ、ピエロさんとお友達なの?



いこいの森 クヌギの広場

極相林で覆われることが想像されます。その痕跡は市内の社寺林、城址公園の樹叢に見ることが出来ます。

里山は日本農耕の支え

日本では、およそ三千年前の弥生時代に稲作農耕が始まっています。稲作農耕が始まったから、人々は一定の場所で生活するようになったのです。

まず、水辺に近い平野部の自然林を伐採し、水田をつくりました。伐採した材木を利用して、住居をはじめ、農耕用具、狩猟用具をつくりました。毎日の炊事、暖房、土器づくりに欠かせない燃料なども、集落周辺にある森林を伐採して使用したわけです。

伐採しても田畑に使わなかった平野部、丘陵部の植生は、それぞれの地形、気候条件にあった二次林・雑木林に遷移します。小田原の丘陵地ではクヌギ、コナラ、クリなど異種類の混じった広葉樹の雑木林になります。

以来、この雑木林はおよそ20年周期で伐採され、燃料、農・狩猟用具材として利用されています。また、落ち葉を集め腐らせ、肥料として田畑に与えました。そのため、協同で

灌木、下草刈りなど手入れをして、雑木林は維持されています。これが「里山」のはじまりで、かつての日本の農業はこの里山の雑木林によって支えられてきたわけです。

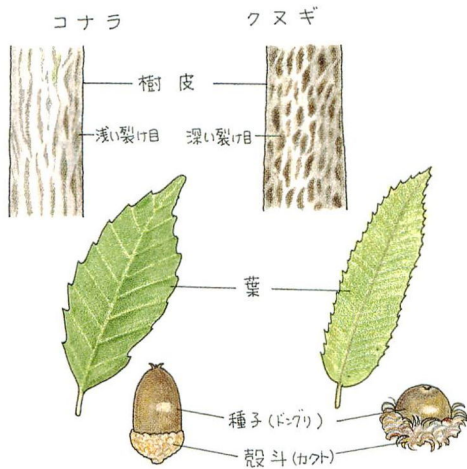
「人と自然の共生」という言葉がありますが、人が使いながら森のリズムを維持してきたのが、この「里山」の雑木林なのです。

生態系に必要な雑木林

昭和40年代以降の経済成長は、農家の営農形態に変化をもたらし、特に化石燃料、化学肥料の普及は農家にとって雑木林の必要性をなくしました。そのため雑木林は手入れもされず放置され、都市化の進む地域では宅地に転用されています。また、放置された雑木林は元の植生である常緑広葉樹林に遷移するものも見られます。

現在、この雑木林の減少は、全国的な傾向のようです。雑木林は異なる種類の樹木が生育している

【雑木林の代表種】



を研究し、さまざまな生き物に配慮したクヌギ、コナラの広葉樹林（雑木林）づくりを進めていくそうです。

小田原の豊かな自然、生物多様性の保全の上からもうれしいことです。

小田原市の総合計画「ビジョン21おだわらの主な事業に「里山の整備計画」があげられています。市民と行政が一体となって、新しい森林

となり、生態系の単純化が懸念されています。

近年、スギ、ヒノキの植林が進んで単相林となり、生態系の単純化が懸念されています。

さいわい、小田原市の総合計画「ビジョン21おだわらの主な事業に「里山の整備計画」があげられています。市民と行政が一体となって、新しい森林

を研究し、さまざまな生き物に配慮したクヌギ、コナラの広葉樹林（雑木林）づくりを進めていくそうです。

小田原の豊かな自然、生物多様性の保全の上からもうれしいことです。

小田原市の総合計画「ビジョン21おだわらの主な事業に「里山の整備計画」があげられています。市民と行政が一体となって、新しい森林

となり、生態系の単純化が懸念されています。

近年、スギ、ヒノキの植林が進んで単相林となり、生態系の単純化が懸念されています。

さいわい、小田原市の総合計画「ビジョン21おだわらの主な事業に「里山の整備計画」があげられています。市民と行政が一体となって、新しい森林

を研究し、さまざまな生き物に配慮したクヌギ、コナラの広葉樹林（雑木林）づくりを進めていくそうです。

小田原の豊かな自然、生物多様性の保全の上からもうれしいことです。

やめられない お菓子たち Vol.4

米町本坂屋の 地酒の生酒ゼリー

晩酌代わりにほろ酔い気分

熱燗の恋しい季節、小田原の地酒「智恵袋」を使った金箔入り生酒ゼリー一杯、ほんわか酔い心地が味わえる。寒い冬の夜は家族で、夫婦で、ほんのり疲れを癒しましょう。1個250円。

米町本店/米町1の16の46
TEL.22-3020 第3水曜定休
アミーおだちか店もあり

Odawara Driving School

私たちは安全行動のとれる初心運転者の育成に努力しています。

教習科目
大型・けん引・普通・普通自動二輪

〈ローン制度あり〉

神奈川公安委員会指定
小田原ドライビングスクール
蓮正寺540-2 TEL(36)1215~7

蛸田駅より徒歩5分
スクールバスあり

歴史・産業・地場産品・観光を発信

東海道五十三次

シンポジウム小田原宿大会

旧東海道の宿場町で相互の情報交換と交流を深めるために滋賀県で開かれたシンポジウム。12回目となる今回は小田原市で行われます。小田原宿の魅力を増進してください。

11月20日(土)・21日(日)

観光学課 ☎331523

東海道五十三次

徳川家康が1601年(慶長6年)に五街道に「宿駅・伝馬の制度」を設け、特に江戸と京都、大阪を結ぶ東海道の主要道路として整備しました。全長約500km、健脚の人で14日の日本の大動脈の宿場として公認されたのが東海道五十三次の始まりです。

東の横綱 小田原宿

江戸から小田原までの道のりは20里(約80km)日本橋を朝立ち、各宿場をへて2日目は9番目の宿場小田原に到着します。東海道沿いの小田原宿の長さは東西20町56間(約2.3km)道幅は5間(約10m)でした。1803年(享和6年)「小田原宿明細帳」によると、旅館は81軒で、大名の泊まる本陣4軒、脇本陣4軒、一般旅人の泊まる旅籠は73軒だったといわれ、五十三次の西の横綱宮宿に並んで東の横綱にふさわしい宿であったといえます。なお19世紀中ごろの最盛期には旅館が110軒にもおよびました。



桂 歌助

- 記念講演 桂 歌助さん「東海道二宿一席落語を終えて」
- 討論会 五十三次番付表を作った中村静夫さんをゲストに迎えて討論会が行われます。
- 日時 11月20日(土) 13時30分～15時30分(受付開始12時30分)
- 場所 市民会館 定員 先着1107人
- 資料展 小田原宿の資料・東海道各宿の観光パンフレット
- 日時 11月17日(水)～21日(日) 9時～18時
- 21日(日)は16時まで
- 場所 市民会館

※この小田原宿(下)は下流(下)横綱(下)資料館蔵

「曾我梅林と富士山」の

年賀はがき発売

平成12年用寄附金付お年玉付郵便はがきに小田原の梅林が登場。11月1日より売価55円で県内の郵便局で一斉発売開始。

なつかしいお友達に、いなか

の両親に小田原をPRしよう。

2月1日から開かれる梅まつりで会う約束をするなんてすてきな年賀状ですね。

問 小田原郵便局 ☎226002



用途地域と地区計画の変更案の縦覧

羽根尾土地区画整理事業の進行に伴い、用途地域と地区計画を変更します。詳しくは、広報おだわらいふ11月15日号をご覧ください。

縦覧期間 11月15日(月)～29日(月) 8:30～17:00(土・日・祝を除く)

場所 市役所都市計画課(6階)

問 都市計画課 ☎33-1571



月かきかたに、月の寅と。和菓子菜の花。

この3カ月、ふりむいてみたら月のこと、栗のこと。お菓子の背景も、同じものをとりあげてしまった。自然の流れでなったのに、月や栗につかまってしまった、秋の終わりです。強火の厚い銅鑪で焼かれた、沖縄黒糖を使った寅やきが、いい季節になりました。丹波大納言の炊き上げる湯気もことふくらでできました。秋の終わりをお楽しみください。

菜の花店主 高橋台一

小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567 営業時間/午前10時～午後6時

11月

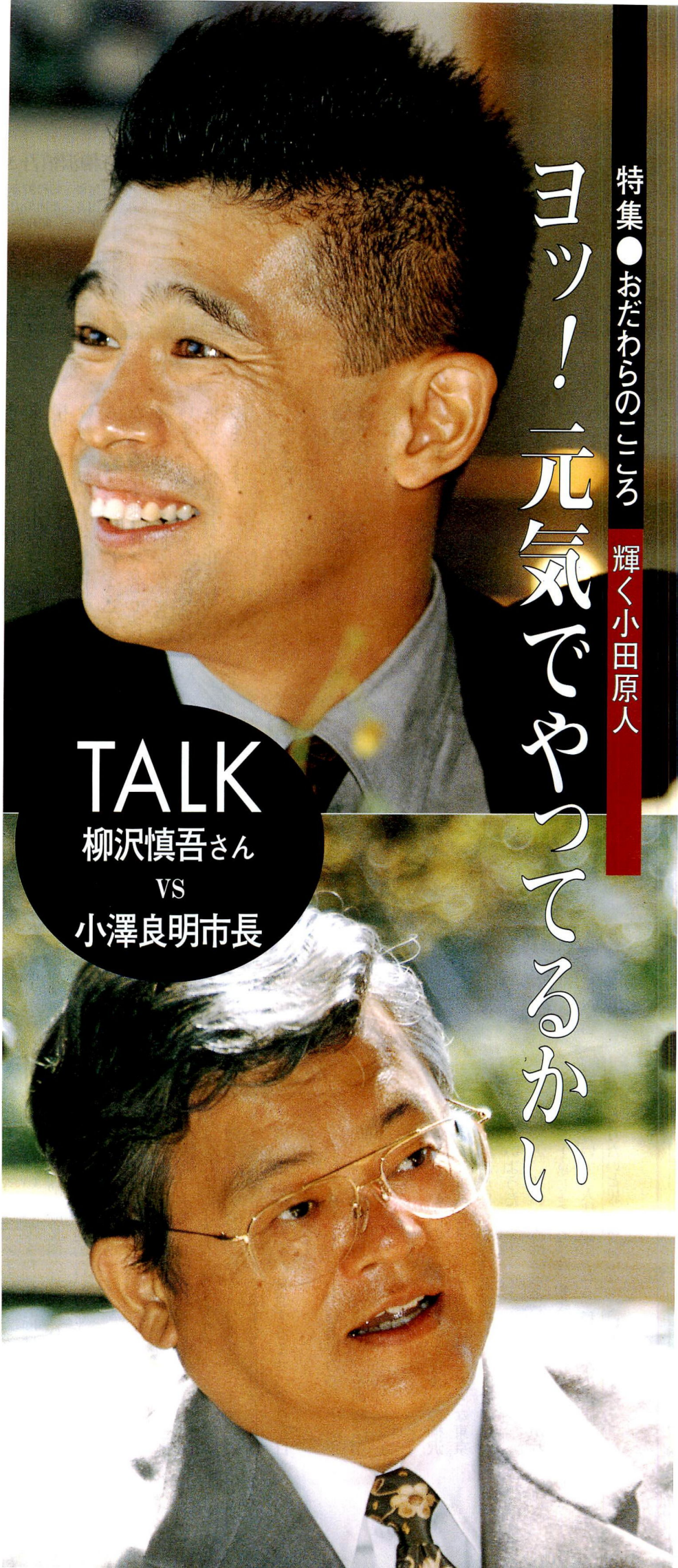
小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567 営業時間/午前10時～午後6時

●11/3(水)～18(木) 小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567

●11/21(日)～12/6(月) 小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567

●11/24(日)～12/6(月) 小田原駅前お城通り ☎0465-23-1567

ヨッ！元気でやっってるかい



TALK
柳沢慎吾さん
VS
小澤良明市長

いつも海で
遊んでいました

輝く小田原人をお招きする市長対談。今回は、テレビや映画で活躍中の柳沢慎吾さんです。

市内東町出身の柳沢さんには、小田原・城下町大使としてその知名度を生かし、小田原のPRに一役買っていただいています。とくに、小田原の海には特別の思い入れがあるようです。

市長との熱き対談は、少年時代の話から、芸能界の話、同年代へのメッセージへと広がっていきます。

市長 いつも元気な柳沢さんですが、その元気はどこから湧いてくるんですか。

柳沢 たぶん、母親の影響でしょうか。母はおおらかな人で、近所の子供たちがいつも夕飯を食べたり、遊びに来たりしている家でした。自然と、私も「人が好き」、「おしゃべりが好き」といった性格になったようです。

—「小田原といえば海ですよ」
テレビで見ると同じように、いやそれ以上の気さくさで柳沢さんは語り始めた。人なつこい目と、軽快な語り口は周りの者の心を引きつけていく。

市長 子供のころの小田原の思い出というところですか。

柳沢 何といっても海ですね。山王公民館のわきを抜けると自宅から3分で海です。楽しいときもつらいときも、海に行っていたような気がします。私にとっては、海が遊び場であり、青春であり、ふるさとそのものなんです。

小田原出身、自慢です。

柳沢慎吾さん

俳優。昭和37年3月生まれ。小田原市東町出身。市内の山王小学校、白鷺中学校に通学する。昭和55年芸能界入り。20歳のとき、現プロダクション社長と会社を興し、現在に至る。「ふぞろいの林檎たち」(TBS)、「元禄繚乱」(NHK)、「薄化粧」(五社英雄監督)「虹をつかむ男」(山田洋次監督)など、テレビ、映画に多数出演。ヒロ・プロダクション所属。平成6年、小田原・城下町大使に就任。



市長 出演されている番組を拝見しますと、海のことをよく話されていますね。

柳沢 私は、青春ドラマにあこがれて俳優になったんです。そのドラマにはいつも海が映っていましたから、主人公と海のそばに住む自分とを重ね合わせていました。海のきれいな小田原に生まれていなかったら、俳優にはならなかったかもしれません。

市長 今、東京に住んでいらっしゃるようですが、東京から見た小田原はどんな印象ですか。

柳沢 近いですね。車でも、新幹線でも40〜50分で来られますから。都内でも、渋滞に巻き込まれたり、電車を乗り換えたりしているうちに、小一時間かかってしまいます。都心からこんな近いのに、東京とは独立した文化を持っているまちなちです。

柳沢さんは、シナリオライターの山田太一さんと俳優の阿藤海さんと、小田原が縁で交流を深めているという。

市長 柳沢さんには小田原・城下町大使として、芸能界で小田原をPRしていただいています。

柳沢 芸能界に入ってから驚いたことなのですが、俳優には小田原ファンは実に多いんです。海がいい、人も気候も暖かい、小田原に住みたいんだというんです。先日、ウッチャンナンチャンの南原さんとキャイーンの天野くんが、小田原の海を見たいというので、実家



協力: スパウザ小田原

に招いて3人で3時間ほどボートと小田原の海を眺めていました。

市長 住み慣れてしまうと、忘れがちになりますが、小田原は、海岸線が長く、浜、磯、漁港と表情豊かな、さまざまな海があります。柳沢 最近、私の企画で、ある番組を小田原の海を舞台に撮影したんです。ホント絵になります小田原の海は。

市長 それはうれしい話です。柳沢 あまりにも多くの芸能人から、小田原

のことを聞かれるものだから、いつしか小田原出身であることが私の自慢になってしまいました。

おだわらのまごころ



市長 小田原は、海あり、山あり、川あり。産業も一次産業から三次産業までバランスよくそろっています。小学校の教科書に載るようなまちなんです。いわば、地方都市の典型、日本の縮図ともいえるかもしれません。

柳沢 全国どこへ行っても、小田原を知らない人はいないですね。知名度は抜群です。

市長 高度成長期の波に乗り遅れたところもありますが、逆の言い方をすれば乱開発を逃れ、荒らされなかった分、小田原らしさといった良い面が程良く残っているまちなちだと思います。

柳沢 市長さんは、小田原をこれからどんなまちにされようとお考えですか。

市長 観光行政を柱の一つにしています。これは単なる観光だけではなく、小田原を中心にあくさんの人々が交流するまちなちづくりを指しているのです。

これから着手する小田原市民の夢「小田原駅東西自由連絡通路」の建設も、その起爆剤になると思っています。

現在、都内のマンションにお住まいの柳沢さん。近所づきあいが希薄になりがちな東京の生活が長くなり、温かかった小田原が懐かしいようだ。

柳沢 若いころ俳優を志し、東京にあこがれて上京しました。今、40歳を前にして、海がきれいで、人情味あふれる、穏やかな小田原に戻りたいと思うようになってきているんです。

小澤良明市長



小田原のまちが発展することを望むと同時に、子供のころの記憶にある温かい小田原でいて欲しいとも願っているんです。ぜひいたくなお願いでしょうか。

市長 小田原の街並みも刻々と変化しています。最近では、国道1号の電線類が地中化され、とても美しい景観になりました。といって、私は小田原をミニ東京のようなまちにしようとは考えていません。この地には伝統と歴史の上に培われた小田原文化というものがあります。そこに、人々が交流し、新しい文化が生まれることで、街並み、人情、風情といった「おだわらのこころ」を守り、育てていきたいと思うんです。

みんな！
元気出せ



市長 人々が交流するまちづくりには、ハード面の整備も必要ですが、実は外からのお客様を「もてなす心」が最も大切になるだろうと考えています。柳沢さんのような人を引きつけるサービス精神旺盛な方は、これからのま

ちづくりには欠かせないキャラクターですよ。柳沢 芸能界に入ったころ、先輩から「あいさつだけは欠かすな」「元気を出していつも笑顔でいろ」と教えられました。単純なことですけど、市長さんがおっしゃる「もてなす心」とは、そういうことかもしれないですね。

市長 その笑顔の影には、人知れず、ご苦労があったと思います。

柳沢 芸能界は厳しいところですよ。もうだめだと思ったことは一度や二度ではありませんが。そんなとき、車を走らせ、西湘バイパスにのり、緩やかな曲線を描く海岸線が見えてくると、小田原に帰ってきたとしみじみと感じたものです。ひとしきり、海を眺めていると、不思議とまた元気が出てきて、もう少しだけがんばってみようかと。その繰り返し

の20年だったような気がします。

市長 芸能界もそうでしょうが、これからのまちづくりも、柳沢さんくらいの年代の人が中心になって、がんばってもらいたいと思います。

柳沢 同年代の人にはとくにエールを送りたいですね。いつも夢をもってがんばって欲しい。

「夢」という言葉を発したとき、それまで笑顔の絶えなかった柳沢さんの表情が、瞬間真剣なまなざしになった。いつもおどけていたようで、実は厳しい芸能界を生き抜いてきた中で、「夢」を持ち続ける大切さを実感しているのだろう。

柳沢 30歳代後半ぐらいから、妙に訳知りぶって老け込む人もいますよね。でもそんな年じゃないはずですよ。いつも何かに燃えていたいんです。それが何であってでもいい。「夢」を持ち続けて欲しい。



市長 柳沢さんが抱き続けている夢は何ですか。柳沢 これは芸能界に入ったところからの夢なのですが、一度でいいから、「監督・脚本柳沢慎吾」の青春ドラマをつくってみたいです。汗と涙と友情であふれる青春ドラマです。そのときは、必ず小田原の海を舞台にします。約束しますよ。

市長 ぜひ実現させてください。楽しみにしています。最後に、小田原市民にメッセージをいただけますか。

柳沢 メッセージですか、ではこれでいきましよう。

「元気だな」「いい夢見ろよ」「あばよ」

最後に決めゼリふと笑顔を残して、柳沢さんは風のように東京に帰って行った。その後ろ姿に、思わずエール。さわやかな対談だった。

<慎吾ちゃん情報>

10月15日(金)スタート(全10回)
TBS「美しい人」22:00～
レギュラー出演

サイン入り色紙プレゼント!

柳沢慎吾さんのサイン入り色紙を抽選で10名様にプレゼント!
応募方法 はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号、今回の広報おだわらでおもしろかった記事を記入の上、「サイン入り色紙希望」と書いて郵送

〒250-8555 小田原市役所広報聴室
☎33-1261

●応募締め切り●11月30日(火) (消印有効)





輝く小田原人

各界で活躍中の小田原人

彼らの熱いメッセージのキーワードは「こころ」

小田原のまちは、彼らに夢と希望とやすらぎを与えた



栗田博文さん(指揮者)

小田原には感動する チャンスがいっぱい

「オーケストラの指揮は感性がいのち。感性は人が感動するたびに磨かれる。小田原は最高ですね。だって感動するチャンスがこんなにあるまちはほかにないのだから。海・山・川といった自然も、人やメダカやミカンなどの生き物もすべてが輝いている。小田原あっての今の私です」。世界的に活躍中の天才指揮者のインタビューは始まった。

栗田さんは19歳までの多感な時期を小田原・荻窪で過ごした。その後、第23回東京国際音楽コンクール指揮部門第1位優勝、神奈川フィルハーモニー管弦楽団

指揮者を経てフィンランド・シベリウス国際指揮者コンクールの最高位に輝き、今、最も期待される指揮界のホープである。

「音楽は人の魂

をゆさぶって、喜怒哀楽を享受させます。しかし、指揮者は自らが音を出せない。だから、私の仕事は、作品の要求する明確な意図をオーケストラのメンバーに強烈にアピールし、共同作業で音を作り上げることです。そのために信頼関係が重要なことは言うまでもありません」と音楽の話では表情が変わる。まさしく頂点を極めたプロの顔だ。

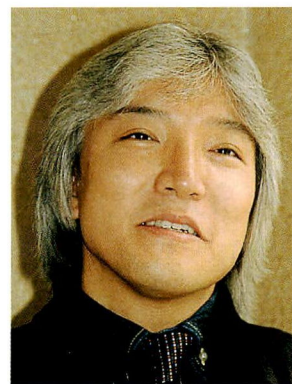
「私にとっての小田原は原点ではなく、あたりまえの場所なんです。帰ってくる」と自然に体が順応している。人は皆、いい意味で城下町としてのプライドが高

く、誇りを持って生活している。同じように東京人もプライドが高いが、東京に比べて小田原の人はおおらかで、そのお陰でストレスも少なくゆったりと時が流れているのです。身も心もリラックスするような感覚なのでしょうか」と。

「初めての渡欧から帰国し、ロマンスカーの車窓から夕陽に染まる小田原が見えたとき、なぜかボロディン作曲『ダッタン人の踊り』のメロディーが浮かんだ

です。郷愁ですかね」とほほえんだ。

指揮台の上から観客を魅了する栗田さんのこころには、いつも小田原がある。





すすむ
平井亨さん
(モトクロスプロライダー)

駆け回るレーサーなのだ。

平井さんは国内モトクロス界の貴公子。13歳から始めたモトクロスでぐんぐん頭角を現し、現在は国内でもわずか57人しかいない国際A級250ccクラスのトップレーサーだ。レースは年間10戦。3年前に千葉マリスタジアムで行われた「スーパークロス」でみごと4位入賞。以来数々の大会で好成績を残し、現在はスポンサーが数社集まるプロのレーサー。

生粋の小田原っ子の平井さんは本町在住。「小田原の表情が大好きです。遠征から戻ってくるとレースの疲れを忘れるほどにほっとします。自然が美しいまちは、たくさんありますが、小田原ほどさまざまな表情・景色を持つまちはどこ行ってもない。海が大好きで、トレーニングを兼ねて自転車で海岸線を走り、時には真鶴・湯河原まで行くんです」と、厳しい



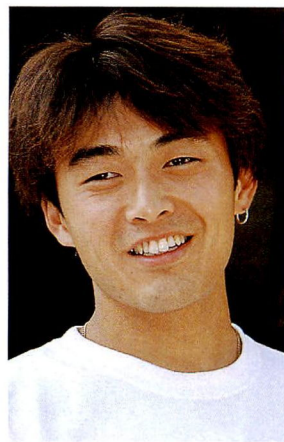
「学校に行って勉強して就職する。たしかにその道もすばらしい。でも、人生の道はひとつじゃない。私はバイクが好きだったので、違う道を進んだ。もし、夢があったら、自分を信じて進むこと。夢は待っているんじゃないですか」

週2回のスポーツジム通いで鍛えあげている体と日焼けした端正な甘いマスク。容姿だけじゃなく、生き方もカッコいい。なるほど彼が、自由自在にバイクを操りオフロードを砂煙をかき上げて

夢は必ずかなう。
ただ自分を信じること!

戦い後の体を小田原はやさしく癒やしてくれるようだ。

「モトクロスの魅力は、やはりジャンプ。だって人間は空を飛べないじゃないですか。一瞬で鳥になれます。バイクは最高の遊びであるとともに私の夢をかなえてくれる友達です。目標はずばり世界進出。世界のトップレーサーが出場するアメリカのレースで活躍したい」と、力強い口調で話す平井さんを見ると、夢が現実味を帯びてくる。



「今年、スリランカにテレビの収録に行ったときはまいりました。そこには陸から舟で4時間の沖に水深がいきなり900メートルに落ちこちる絶好のポイントがあるんです。絶対に超大物が潜むだろうと胸が踊りました。いざ、舟を現地の人に出してもらったら、さあ大変。魚群探知機の故障を知らされて、おまけに1時間もたたないうちにガス欠になっちゃったんですよ。あれだけ事前に綿密な打ち合わせをしても、いつも現地の人は何かしでかしてくれる。ミスがあっても『ノープロブレム、ノープロブレム(問題ない)』と笑っているだけなんだから。スタッフ一同がっかり」と、話に熱中するにつれて村越さんの瞳には輝きが増していった。

小田原ブランドって知ってる??

村越正海さん

(フィッシングライター)



高校生の釣り全国大会・フィッシング甲子園決勝戦 バリ島にて大物のロウニンアジ(40kg)を抱える村越さん

「今、釣りは年間300日。2時間余裕があれば、酒匂の家からすぐ竿を担いで酒匂川・米神・芦ノ湖といった私の庭に釣りに行きます」。日焼けした顔から白い歯がこぼれる。

村越さんは酒匂在住。仕事は、テレビの釣り番組のレギュラー、雑誌への寄稿、テレビゲームのソフト開発、その他釣りに関する企画・編集・監修と多岐にわたる。

「湘南ブランドを知ってるでしょ。サーファーが湘南にアコがれて茅ヶ崎に集まる。同じように小田原は釣り人にとって、自然・気候・交通とすべてにおいて最高の条件を満たすアコがれの地・小田原ブランドなんだ。砂浜・岩場・川と釣り場も豊富で湖も近い。富士山をバックに釣り糸を垂れば、さわやかな風が快い」村越さんはニュージーランドやオーストラリアにも住んでみたいというが、生活の便利さも考えると小田原が最高だという。

「家と学校が川や海岸まで数分という絶

好の場所だったので、小・中学校時代は学校に釣り道具を置いて、朝釣って、授業を受けて、放課後釣ってという、鉛筆より竿を握った学生でしたねえ」と笑う。

「今年、スリランカにテレビの収録に行ったときはまいりました。そこには陸から舟で4時間の沖に水深がいきなり900



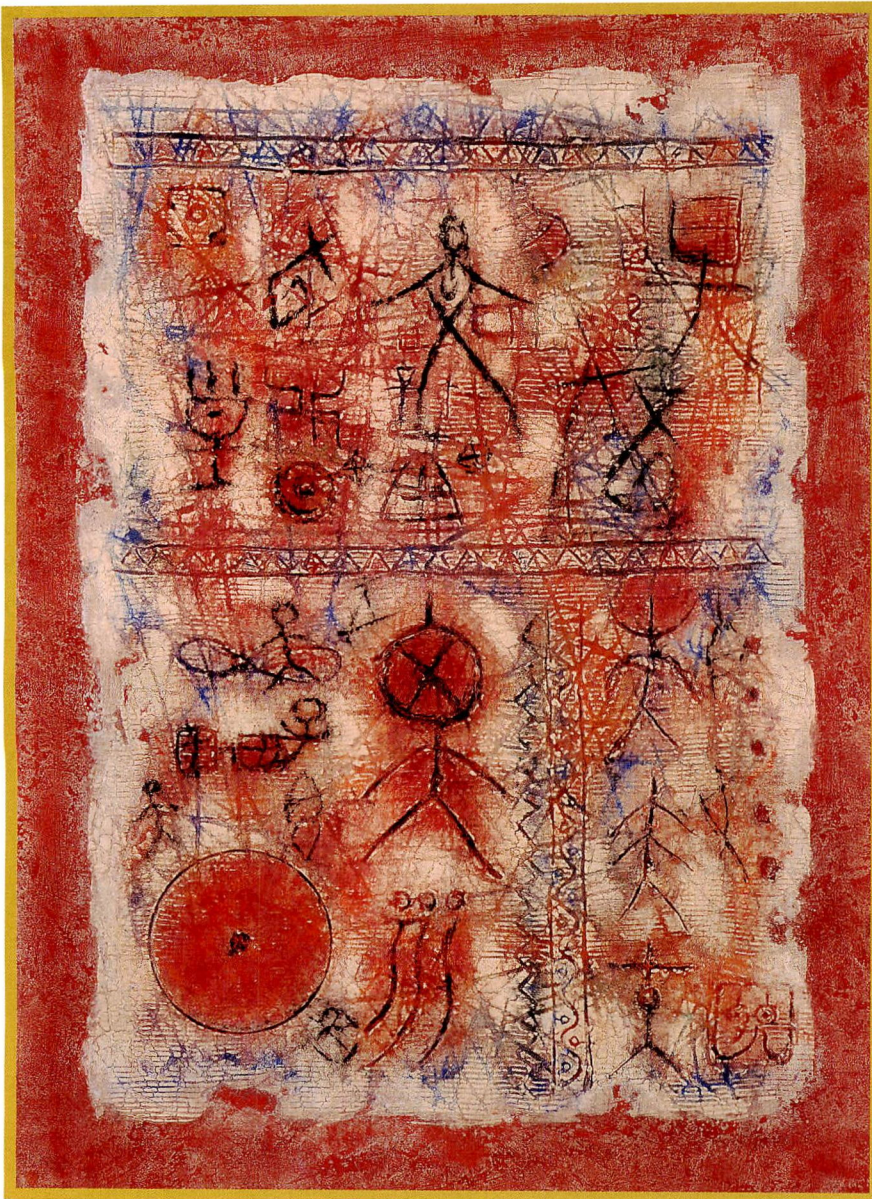
メートルに落ちこちる絶好のポイントがあるんです。絶対に超大物が潜むだろうと胸が踊りました。いざ、舟を現地の人に出してもらったら、さあ大変。魚群探知機の故障を知らされて、おまけに1時間もたたないうちに

にガス欠になっちゃったんですよ。あれだけ事前に綿密な打ち合わせをしても、いつも現地の人は何かしでかしてくれる。ミスがあっても『ノープロブレム、ノープロブレム(問題ない)』と笑っているだけなんだから。スタッフ一同がっかり」と、話に熱中するにつれて村越さんの瞳には輝きが増していった。

心の色

心の象 かたち

文字誕生(国語Ⅱ表紙) 1998年455×333



箱根・芦ノ湖畔の成川美術館で、芳澤一夫さんの個展「心の色 心の象」が開かれ、約10万人が芳澤さんの作品に触れた。会場では作品に多くの観客が見入るように群がり、ためいきとものつかない感嘆の声が漏れていた。「ファンタスティック」「ビューティフル」など国際色豊かな観客が多く訪れる成川美術館ならではの感激の言葉も飛び交った。芳澤さんの絵

は万国共通、感動を呼ぶのである。あるファンが芳澤さんに「一番好きな作品はどれかを聞いた。「あなたは、自分の子供の中で一番好きな子の名を答えられますか。どれもが私にとっては一番大切なのです」と。「心は象があるようでない。それをキャンバス上に色や筆づかいで表現したい。絵はテクニクより先にキャンバスの上と感じたままを表現したいと思う心が肝心なんです」と。「小田原には昔からすばらしい人が集まり歴史・伝統を築いてきました。それが文化のまち小田原の魅力なのでしょう。今後さらに人が集い・輝き、小田原から多くの人が羽ばたく。そんなまちになるといいですね」。

芳澤さんは、21世紀も日本画のもつ色と美にこだわり続けて、キャンバスに心を表現していくだろう。

成川美術館館主 成川實さん

かつて浮世絵が印象派に強い影響を与えたように、いつか彼自身が外国のアーティストに強い影響を与える日が来るかもしれない。そんな人とお付き合いできて、本当に幸せだと思っています。 さだまさしさん



NIPPONIA NIPPON 1992年 65.2×53.0
さだまさしさんのCDジャケットに使われた

芳澤一夫

1954年神奈川県生まれ。城山在住。東京セントラル美術館日本画大賞展、上野の森美術館絵画大賞展など数々のコンクールで入選・入賞。ヴァイオリニスト江藤俊哉さん(芸術院会員)、さだまさしさんなど音楽家からの依頼により作品提供。高等学校「国語Ⅰ・Ⅱ」の表紙に起用されるなど多方面で活躍。

